

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームせせらぎの森 いちよう	評価実施年月日	平成21年12月14日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月14日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者様本意の考えに基づき、日々その人らしく暮らしていただけるよう基本理念、ケア理念を掲げている。		
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ユニット内玄関の見やすい所、スタッフルームにそれぞれ理念を掲示している。理念に沿ったケアを提供できるよう、朝の申し送りの前にスタッフが理念を声に出して確認している。又ユニット独自の理念も掲げている。	○	日々理念を意識できるように、ユニット会議、ミーティングで再確認の場としていく。
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族様には入居前にホームの方針を説明。運営推進会議や地域交流の中で理解していただけるよう取り組んでいる。 理念はユニット内玄関の見やすい場所に掲示ご家族様も目を通されている。	○	ご家族様に対しては、毎月「せせらぎ通信」にて、ホーム内での日々の生活の様子や外出での写真を掲載し理解を呼びかけています。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物や散歩の時など、ご近所の方と挨拶を交わしたり、話をさせていただいている。	○	ホームの正面に小学校があり、ボランティアに来てくださるなど、気楽に立ち寄れるホーム作りを目指しております。又今後地域の方が参加していただけるような企画を取り入れていきたい。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事や小学校の行事に参加させていただいております。又小学校、児童会館の児童が来所されて入居者様と交流されている。	○	今後も積極的に地域の行事に参加し、つながりを深めていきたい。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	電話での相談や、ホームに来られた方の対応を行っている。又高校生の体験学習を取り入れている。	○	若い世代にも介護職の親しみが持てるよう力になっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を通し日々の業務を振り返り、又外部評価については結果を謙虚に受け止め改善に向け早急に対応するよう努めている。		
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて、ご家族様、町内会、地域包括支援センターの方々から質問や意見をいただいている。又ホームでの入居者様の様子や行事などへの取り組みを報告し、意見を聞く機会を設け業務の中に反映している。	○	仕事をされておられるご家族様にも参加していただけるよう、時間の調整なども検討していきたい。
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じ情報交換、報告や相談を行っている。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	運営推進会議にて、ご家族様、町内会、地域包括支援センターの方々から質問や意見をいただいている。又ホームでの入居者様の様子や行事などへの取り組みを報告し、意見を聞く機会を設け業務の中に反映している。	○	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしていきたい。
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に入居者様本位の考え方に基づいて支援しており、職員間日頃よりケアを通じて話し合いがもたれている。又外部研修に参加し勉強する機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時や退去時には不安や疑問点に対して十分に説明し、理解と納得を得ている。		
○運営に関する利用者意見の反映 13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット玄関に意見箱を設置しご家族様の意見は日頃から受けられる体制に努めている。又入居者様の言葉や態度からその思いを知りその都度対応し支援に反映している。	○	入居者様一人一人の状態、把握に努め又入居者様と職員が全員で話す機会を設けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族様の来訪時には様子等をお知らせし、又体調不良時や特変時にはその都度詳しく連絡している。毎月広報紙を発行し日々の様子や職員の移動を記載し、入居者様が必要な物を購入される時にはご家族様の了解を得てから購入している。	○	運営会議での意見を反映している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット玄関に意見書箱を設置している。ご家族様からの意見は日頃から受けられる体制に努めている。	○	直接職員に話していただける信頼関係を築いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ユニット会議やミーティングにて、意見や提案を出す機械を設けている。	○	必要時にはその都度話し合う機会を設けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や受診の際には職員の人数を多くしたり必要に応じて勤務調整を図っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係を確保できるよう努め、異動は必要最小限に抑えている。	○	職員の固定化を図り入居者様が安心できる環境を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○	定期的な内部研修の取り組みを図り、知識、技術の向上に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	できるだけ多くの職員が研修会に参加していきたい。又今後も他GH様との交流も深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	必要時には面談をし早めの対応に心掛けている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	○	定期的な自己評価、面談を実施している。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。		事前面談にて生活状況や不安、要望などニーズを明確にしご家族様の思いを受け止めホームでの日々の生活を見学していただき、不安な事にはお答えしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な時には可能な限り対応を行い、状況に応じて速やかに他の機関への紹介も行っていけるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にはご家族様と一緒に見学していただき、ホームの様子や雰囲気を感じていただき、不安等を軽減していただけるよう心掛けている。又入居後は馴染みの家具などできるだけ在宅生活に近い状態で過ごしていただけるよう努めている。	○	入居後はご家族様に安心していただけるよう、日々の様子等連絡を密に行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様とコミュニケーションを取る際、何が好きで何ができるのかを見極め、できる事の喜びを感じていただけるような関わりや声掛けに努めている。又生活を共にする中で多くの事を学ばせていただき、感謝の気持ちを大切にしております。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様来訪時には、近況報告や情報交換を行っております。又状態の変化等見られる時には速やかに連絡を取り経過報告を行いその中でご家族様より意見をいただき参考にさせていただいている。	○	入居者様の状況や様子をお伝えする中で安心していただける関係作りを心掛けている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご家族様からのお話やご本人様から双方のお話をこれまでの関係を理解し、お互いがより良い関係を継続できるよう配慮している。	○	今後も入居者様、ご家族様の関係を理解した上で支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前からの友人、知人等が気兼ねなく面会に来ていただけるよう、ご家族様の了解を得又活動への参加も協力体制を取り実施している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に入居者様の状況を把握し、円滑な交流が図れるよう心掛けている。又個人が孤立せず、関わりを持てるよう職員が間に入り話ができる雰囲気作りや軽作業する場での話題作りなど配慮している。	○	食事やお茶の時間には、職員も一緒に入り皆で過ごす時間を大切にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他施設や病院等に移られた入居者様の状況や様子などを伺い必要時には相談に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中でみつめていく事を心がけ、ケアプランの中に生かし、できる限り実現できるよう努めております。又困難な方にはご家族様にこれまでの経過、状況をお話し、それを基にご本人がより良い暮らしができるよう努めている。	○	今後もご家族様の理解、協力を得て共に支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご家族様、ご本人様より情報収集を行い、又日々のコミュニケーションの中で、生活やどう感じてこられたのか把握するよう努め職員間で共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	入居者様一人一人の心身状態を把握し、又生活記録にて生活パターンの把握、体調の変化を総合的に把握するよう努め記録し職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常生活の中でご本人の言動やご家族様の要望など又医療機関からの指示など取り入れ担当者会議、ケアカンファレンスにて意見交換をし、ケアプランに反映している。	○	きめ細やかな計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に変化が生じた際には、医師、看護師、ご家族、職員との情報交換をしその時々ニーズに合わせた介護計画書の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人一人の生活記録を毎日記入している。気づいた事等は職員で共有できるよう申し送り、ミーティングし実践につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じて他科への通院支援を行ったり、その時々々に合った支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	2ヶ月に一回運営推進会議を開き、認知症についての説明、理解をお願いしている。又保育園や小学校行事、学童保育との交流、町内会のお祭りにも参加させていただいている。	○	来年4月に一階に保育園が開設される為、今後交流を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人、ご家族様の希望に応じて訪問美容サービスを利用していただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターだけでなく、東区全体での話し合いを定期的に行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	訪問看護師、かかりつけ医師と連携をとり日常の健康管理の支援を行っている。又いつでも必要に応じて、相談、指示を仰ぐ事ができる関係作りができています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師は認知症に対しての理解があり相談に応じていただいている。必要な他医療機関への受診の際にも助言をいただいている。	○	地域の診療内科の医師、かかりつけ医師と共に連携を取り安心して受診、治療できるように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に一度来訪し入居者様の普段の様子や気になる点等報告し健康管理の支援をしている。又時々行事にも参加していただき、日常以外の一面も把握していただけるよう努めている。	○	入居者様の状態に、必要時には直ぐに連絡つく体制があり応じていただいている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	できるだけお見舞いに行き、表情、言動に留意し不安を軽減できるような声掛けを行っている。病院関係者と連携を取り、情報交換しご家族様とも情報を共有し早期退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状況の変化時には、医師、看護師、ご家族様、職員で話合う機会を設けている。	○	常日頃から話し合える関係作りに心掛け、終末期医療に対してご家族様から同意書をいただいている入居者様もいる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族様の気持ちを大切に、急変時には直ぐに対応していただけるよう連携を取っている。	○	
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の事業所へ移動される時には、十分に話し合い、ご本人の状態やご家族の希望を確認し本人に合った環境と考えられるサービスへと移行している。	○	移動される時には、日常の様子、身体状況、ケアプランをお渡しし安心して暮らしていただけるよう努めている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は入社時に、接遇、マナー等の説明やミーティング等を通じ礼儀や言葉使い入居者様一人、一人の誇りやプライバシーに配慮し、個人情報の取り扱い、記録の管理、保管も徹底して行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者様一人一人がご自分で決められるような関わり方を心がけ、ご自分で決めて納得し暮らせるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の生活習慣、ペースを大切にしその状態や体調に留意しながらその人らしい暮らしができるよう可能な限り支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人らしい身だしなみやお洒落ができるよう、できないところをお手伝いし支援している。又理美容は、ご本人、ご家族様の要望に添ってホームで利用できたり、ご家族様で散髪されたりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人のできる事を体調や状態をみながら職員と一緒にやっている。その人によっては習慣、役割としてすすんでされる方もいる。楽しみながら準備や片付け、食事ができるよう声掛け関わりを持っている。	○	季節のものを取り入れたり、目で楽しめるような色合いや盛り付けの工夫など又誕生日や行事食など食事を楽しめるよう取り組んでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙される入居者様に対しては喫煙所で吸っていただいている。飲み物はご本人の希望を取り入れているが甘いものの取り過ぎには注意している。お酒は行事の時などに提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方の状態、状況により紙パンツ、パットを使用されている。排泄の習慣、リズムを把握し顔色、仕草様子を見てプライバシーに配慮した声掛け誘導を行っている。	○	トイレにて排泄できるよ間隔を把握し、汚染が少なくなるよう努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には午後から入浴していただき、週2～3回入浴できるよう対応している。いつ入浴されたのか確認しながら声掛けを行っている。入浴がお好きでない入居者様に対しても言葉掛けの工夫を行っている。	○	入浴者様から希望があるときには柔軟に対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣やその時の状況に応じて、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。又体調により日中臥床時間を設けている。夜間眠れない等の訴えがみられる時には、飲み物を提供したり安心できる関わりを行っている。	○	睡眠状況を把握し、生活の中にメリハリが持てるよう関わりを持っていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の生活の中で一人一人のできる事を見極め役割が持てるよう支援している。趣味や得意な事が楽しく発揮できるような声掛けを行っている。	○	入居者様全員が能力に合った役割を持ち、楽しみや張り合いに繋がるようなきっかけ作りに取組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはお金はホームでお小遣い金としてご家族様から預かり、生活必需品の購入やご本人の希望される物品を購入している。	○	外出時に本人がお金を支払う機会の場面作りを図っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節に応じて、個別の買い物や散歩等は希望があった際や職員がお誘いしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月2回ユニットでの外出行事を企画しており、日帰り温泉や、ドライブ、食事など楽しめる機会を設けている。	○	様々な活動を通して気分転換を図り、楽しみのある生活に繋げていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の要望があった際には随時行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間はなじみの方、ご家族様がいつでもくつろげるよう規制はしていない。一緒に過ごされる場所も自由にお好きな場所でくつろげるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	特にスピーチロック、ドラックロックに対して取り組んでいる。外部研修へも積極的に参加し事例を元に協議しあっている。	○	今後も職員全員が研修会に参加できるよう調整を図っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に施錠せず、自由に外へ出られるようにしてあるが、夜間は職員一人になる為施錠している。玄関には戸を開けるとチャイムが鳴るようにしており、入居者様の所在、行動に留意している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず、居室の戸を閉めたり、鍵をする事は自由にしているが声掛け見守りにて状態、所在の確認を行っている。	○	職員同士声掛けを行い、常に職員全員が所在の把握ができるよう取り組んでいきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人に合わせて危険なハサミ、カッター、髭剃り等はお預かりし、注意の必要な薬品、内服薬はホームで保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態を把握し未然に事故を防ぐ為の工夫を図り職員間で連携している。又ヒアリハット、事故報告書を作成し再発防止に努めている。火災の予防に対しては居室のカーテンは防災を使用してもらい、たばこ、ライターは職員が預かりその都度対応している。非難訓練や救急救命講習の受講、救急マニュアルを熟読するなど事故防止に取り組んでいる。	○	ヒアリハット、事故報告書は直ぐに職員が共有できるよう対応している。又ユニット会議にて対応、対策について話あっている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフルームに非常時対応マニュアルがありいつでも確認できる。全職員が救急救命の講習を受けてはいない。	○	今後は定期的に救急救命講習を受講したり、勉強会を開き事故に対応できるよう取り組みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防の協力を得て非難訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いしている。	○	いざという時に慌てないよう夜間も想定した訓練を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様にはこまめに連絡し、状態、様子報告しどのような対応を行っているのか説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定や常に様子観察にて容態の変化に留意し必要時には管理者から看護師、医師へ報告し指示を仰ぎ、迅速に対応できる体制にある。	○	常に早めの対応を心掛けている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は個人ファイルに綴り、いつでも確認できるようになっている。又な内服薬には名前、日付が記載されており、服用時に確認している。又体調不良時や臨時薬で処方された時には、申し送り共有できるようにしている。薬によっては、内服されている入居者様の24時間の記録を別に記載している。	○	処方された内服薬に不安がある時には再度医師に確認している。薬の副作用については今後ユニット会議の中でも取り入れていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給のチェックシートを用い、直ぐに摂取量が分かるように努めている。又食事でも食物繊維の多い食材や、乳製品を取り入れバランスの取れた献立、運動の促しを図っている。	○	身体を動かす機会では、体操やゲームなど日常的に取り入れていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、一人一人に合った声掛けにて、口腔ケア、嗽をしていただいている。口腔内の観察にて必要時には訪問歯科との連携を図っている。夜間は義歯はボリデントに洗浄にてお預かりしている。	○	日々の中で習慣付けていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方によって食事量や栄養バランスに配慮している。又食べやすい大きさ、硬さなどにも注意している。水分量も不足しないようチェックを行っている。	○	水分チェックシートを使用し、不足している水分を直ぐに提供できるようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	衛生管理マニュアルがあり、日常の手洗い、嗽の施行、インフルエンザの予防接種についてはご家族様の同意を得て接種していただいています。食事前には手の消毒の徹底を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布巾、コップなど日中、夜間もこまめに消毒を行っている。食材も新鮮なものを購入し、無駄なく使い切っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物一階入り口には花壇があり季節により花が咲いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースには、窓がない為、フロア内に花を飾ったり、クリスマスツリー等行事に合わせたものを取り入れている。	○	窓がない為視覚で季節を感じられる装飾に取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには、入居者様全員で座れるテーブルや又3～4人で座れるソファなど設置し、思い思いに過ごせて居心地の良い場所になるよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人の馴染みのものを持ち込んでいただき、使いやすい位置、住み慣れた環境に近い状態で安心して暮らしていけるよう、ご本人、ご家族様と相談して配置しています。又仏壇を置いたり、思い入れのある写真を居室に飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者様が集まるホールでは温度計、湿度計を置きその日の天気、気温に合わせて加湿や暖房、換気等こまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホール内には必要部に手摺を設置している。又手摺のないカンター部を手摺の高さにしている。手摺に掴まり歩行練習をしたり、外出時にはその人の身体機能を生かし階段昇降にてその人のできる力を発揮できるようにしている。	○	日常的にその人に合った取り組みで歩行運動を行っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや浴室には手作りの表札を掲示している。又居室にも間違えないよう表札を付けご本人が混乱しないよう対応している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物一階回りには花を植えてあり、水やりや手入れなどされている。又2階事務所で季節に応じて、プランターに野菜を育てており収穫後は食事に使用している。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③7／5に ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- （日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
- ・入居者様一人一人が安全で快適な暮らしができるよう職員全員で考え、職員の固定化を図り馴染みの関係の構築を図っていきたい。
 - ・月2回外出行事を企画しており、日帰り温泉や、果物狩、食事会、散策など楽しみのある生活に繋げている。
 - ・職員は声を掛け合い、お互いフォローし合いながら仕事をしており、何でも話し合える環境、雰囲気を作っている。